

平成22年度 第3回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

1 日 時 平成23年3月29日(火) 18:30~19:55

2 場 所 帯広市役所 10階 第5A会議室

3 議事概要

【会長】

議事に入る前に、前回の開催から半年ほど間隔が空いていることから、総合計画の効果的・効率的推進に不可欠な一連のPDCAサイクルにおける審議会のそれぞれの役割について、あらためて、事務局から説明願いたい。

【事務局】

資料1に基づき説明

(1) 報告事項 平成23年度帯広市予算(政策・施策評価に関連して)

【会長】

政策・施策評価に関連しての「平成23年度帯広市予算」について、事務局から説明願いたい。

【事務局】

資料2及び資料3に基づき説明

【委員】

市長が言っている「フードバレーとかち」を市職員はきちんと理解しているのか。どういう周知をしているのか。

【事務局】

市長就任時は、内部でも「フードバレーとかち」に対する理解は低かったが、その後、職員研修や講演会、折々の市長の話などを通じて、部長を中心に周知徹底がされてきている。また、予算編成のやり方も、「フードバレーとかち」の実現に向けて、市長が部長と一緒に編成に加わって行うなどしてきた。ただ、隅々までの周知というと、まだかもしれない。市民を含めて、周知はこれからも必要と考えている。

【委員】

市の職員に浸透していないものは、市民も分からないと思う。来年度に実行できるのか。来年度はスタートの年にしなければならないので、スピードを高める取り組みが大事なので、ぜひ検討願いたい。

**【事務局】**

「フードバレーとかち」は、「農業を成長産業にする」、「食の価値を創出する」、「十勝の魅力を売り込む」という3つの基本となる柱があり、来年度はこうした柱をベースに取り組みることになる。これ以外にも「フードバレーとかち」を視点とした施策を打ち出している。また、機運を高める施策の予算も計上している。

まちづくりのベースとなるのは、地域産業対策と考えており、これを充実し、社会、市民サービスを充実させたい。

**【委員】**

例えば、バス事業であれば、いろんな取り組みや改善をしているが、なかなか市民には届かず、今よりも、1割や2割、伝える努力をしても届かない。「フードバレーとかち」も人海戦術で取り組むくらいの前例がない、飽きられるくらいの取り組みをした方がいい。

**【会長】**

成果指標の数値を上げるにはどうしたらいいか、ということを考えるしかけが第六期総合計画ではできている。当事者がもっともっと真剣に考えることが大事であり、そのためにも審議会の役割は重要と考える。

**【委員】**

推進計画で施策の3は、(施策の総合評価が)「C」が多い。例えば、制度融資事業であれば、一見、70億円以上の事業規模に見えるが、実質的な経済付加価値としてはかなり少額になっているものとする。

施策の3で「C」が多いのは、まちづくりをすすめるうえでの課題になると思う。

表面的な予算でなく、例えば、保証料補給事業のように利子補給を行うなど、どこに予算をつけることで、活気あるまちづくりにしていくのか、どういう施策が、小さな予算で効果を生むのか、市長や部長だけでなく、商工関係者等とも連携して取り組むべきと思う。

**【会長】**

評価を踏まえて、成果が上がらない要因は何だったのかを考えるのは必要なことだと思う。

**【委員】**

(推進計画の51ページ、とかちブランド育成事業を例にして)「フードバレーとかち」は、モノを作って売ることなのか。総花的にやる必要はないと思うが、パックス的に考えていく必要があるのではないか。

**【事務局】**

「フードバレーとかち」は、3つの基本的な柱ですすめていくこととしており、事例の事業は少額だが、これ以外にも事業はあることを理解いただきたい。

**【委員】**

はっきり言って、分かりにくいというのが正直なところ。

以前も話したかもしれないが、退職金を払うために起債をしているが、どのくらいになるのか。民間の感覚では、退職金を支払うために借金はしない。頑張っている職員には申し訳ないが、見直しも必要。

**【事務局】**

退職手当の件については、全国的に団塊の世代の大量退職の問題があったことから、将来の人件費の削減により、償還財源が確保できると認められる範囲内の額を対象とするなどの条件のもとで、総務省が認めているもの。

行政サービスの維持と国の三位一体改革による自治体の財政の悪化という問題もあり、平成27年度までの時限的な制度であり、市も経過を踏まえた対応をしている。

**(2) 協議事項 平成23年度市民まちづくりアンケート(案)**

**【会長】**

次に、協議事項、平成23年度市民まちづくりアンケート(案)について、事務局から説明願いたい。

**【事務局】**

資料4及び資料5に基づき説明

**【委員】**

アンケートの答えに対して、どういう取り組みをしていくつもりなのか。例えば、問10-Aの防災だが、選択肢のaに「市民の」という文言を入れて、市民の意識が低いという回答があった場合に対して、どう対策を考えているのか。

**【事務局】**

昨年設問にもあったが、どういったところに要因があるのかを探る設問(選択肢)として設けている。市民の意識が低いという回答結果が得られた場合は、評価や予算編成等において、対応を考えていくことになる。

**【会長】**

アンケートについては、まず、アンケートの目的を押さえておく必要がある。アンケートは、市民の実感度をつかみ、市として、どのような対策を打つべきなのかを考えるために実施するもの。また、選択肢のあり方としては、いろいろな選択肢を用意

し、重複しないようにするのがベストである。

今回の修正は、表現の明快化や追加であり、アンケートを行ううえでの原則的なことであると思う。

**【委員】**

回答が「そう思う」、「そう思わない」とかに限られているが、回答者がどうしてそう考えるのかを記載する欄があってもいい。

**【委員】**

このアンケートは、ちょっと先にすすみすぎていると思う。例えば、自分の避難場所を知っているのかとか、避難場所となる学校の耐震化の状況を知っているのか、というような、もう一步手前のことを聞くべきではないか。

**【委員】**

アンケートは、設問項目が多いと回答率が下がる。こうしてA票とB票に分けているのも市の方で努力した結果であり、あまり設問項目を多くすると回答率が下がってアンケートの効果が得られなくなる。

(総合計画としては)これだけ広範に渡っているので、私はこうした内容でいいと思う。要因の分析もできるようになっていいと思う。アンケートは、まず、知ることが大事であり、アクションはその次にあるもので、アンケートの目的は保っている。

**【委員】**

もっと簡素化すべき。例えば、自分の避難場所を何パーセントの市民が知っているのかを把握し、パーセントを上げるための施策が必要だと思う。

**【事務局】**

総合計画のアンケートと各部門のアンケートの違いがあり、総合計画としては、範囲が広範となることから、こういった内容になる。さらに掘り下げていくような設問は、各部門のアンケートにより補っていくものと考えます。

**【会長】**

アンケートの内容を一回決めたら、もうこれでいいということではなく、限られた設問の中で、何を組み込むかを考えていくことが大事であり、市の方で大いに議論してほしい。

**【委員】**

市が取り組んでいる主な仕事の欄について、例えば、防災訓練を年に何回実施しているなど、もっと具体的に表示して、アンケートを実施しながら、市民に市の取り組

みを周知していくことも必要ではないか。また、どこまで取り組もうとしているのかということを知ることにも必要ではないか。

**(3) 報告事項 第六期帯広市総合計画 平成23年度推進計画(平成23年度～平成25年度)**

**【事務局】**

さきほど、推進計画の部分もご議論いただいたので、若干、説明させていただきたい。事前に送付させていただいた推進計画をご覧いただきたい。

第六期総合計画は、基本構想、基本計画、推進計画で構成し、基本構想と基本計画は、10年を計画期間として策定し、ご承知の冊子のとおりとなっている。

推進計画は、中期的な視点に立ち、行財政状況や政策・施策の進捗状況などを踏まえ、計画期間を3年間として、今後のまちづくりの取り組み内容を示し、総合計画を円滑に推進することを目的として策定している。

作りぶりとしては、基本的には昨年と同様に、市民の方が見ることを前提に、一定のボリュームに抑え、限られたボリュームの中で、記述内容と見やすさなどのバランスを考慮したものとなっている。また、前回からの変更点としては、政策・施策評価の評価結果を各施策のところに掲載した。

推進計画の送付の際に、ご意見メモを同封し、見やすさや分かりやすさという部分で皆様のご意見をいただきたい。

**【会長】**

この場で全部意見をもらうということなのか。

**【事務局】**

(全体の審議の時間もあることから) 次回の推進計画策定までには、まだ時間があり、これからもご意見をいただく機会があるので、今日でなくても構わない。

**【会長】**

意見を用意している人があれば、発言願いたい。

**【委員】**

前回の推進計画と今回の推進計画を見てみて、事業費が掲載されているが、前年度との比較ができるようになっていれば、より分かりやすくなるのではないか。

**【会長】**

貴重な意見だと思う。これに対して、事務局の方で意見があるか。

**【事務局】**

さきほど申し上げたように、一定のボリュームに抑えていることから、スペース

の問題はあるが、難しい問題ではないと考える。表現の仕方を含めて、こういった工夫ができるのか考えていきたい。

#### (4) その他

- ・まちづくり基本条例について、条例に定める見直しの時期を迎えたことから、市民による検討委員会を立ち上げ、今後作業をすすめていくこと
- ・事務局職員に人事異動があったこと
- ・総合計画の基本計画にある構想推進プロジェクトの取り組みについて、今後テーマの選定をし、プロジェクトチームを立ち上げ、総合的に検討をしていくことについて、事務局から情報提供した。

以上